

みを始めた事業であり、本市においても市民からの要望が増えていくと考えられます。

同じように高齢化率が30%を超えている本市においても、高齢者が元気に住み慣れた地域でいきいきと、自立した生活ができるように、市民が必要としている事業を充実させることが急務であることから、議会としてもより良い事業の構築のために、市民の声に傾聴していくことが必要であると感じました。



【砂川市】

【鷹栖町】

鷹栖町は北海道のほぼ中央に位置し、北は和寒町、他の三方は北海道

第二の都市旭川市に隣接しており、人口は7千人余です。

JR旭川駅まで車で約25分と利便性が高く、豊かな自然に囲まれた住みよい環境となっています。

基幹産業は農業で、品質、収穫量ともに道内屈指のお米や良品質な野菜を生産しています。さらに、積極的な企業誘致により、農商工が一体となった地域複合産業の形成を目指しています。

合併前の旧鷹島町時代、平成8年から始まったホークス交流事業は、小学校5～6年生が風土や文化、気候の違いお互いのまちを訪問して、実際に自然や暮らしを体験することで相互理解と郷土意識を育み、より広い視野を持った青少年育成に貢献しています。

高齢者交通費助成事業は、平成4年から高齢者の経済的負担軽減と福祉の向上を目的として、80歳以上と70～79歳の運転免許証を自主返納した方に、バスやハイヤーなどで利用可能な1万円分相当の交通券を助成しています。

ホークス交流事業は、心身ともに大人へと成長している小学校5～6年生が、全く違う環境で数日間過ごすことで得た成功経験が、その後の子ども達の成長にも良い方向に影響



【鷹栖町 ホークス交流事業】



していることは大変有意義であり、訪問の時期や受け入れ態勢など、続けていくには難しい面もありますが、子どもたちのために今後も途絶えることなく継続させることが必要な事業であります。

また、22年の交流の歴史が育んだお互いの関係性は、市民レベルの交流にとどまらず、あらゆる面で相互協力や連携など広がりを見せる事ができるのではないかと感じました。

高齢者交通費助成事業は、元気で生活する為に高齢者に必要なものは、「きょういく（今日行くところがある）」と「きょうよう（今日用がある）」との考えから、外出機会を増やす事業としても位置付けられています。経済的な負担の軽減だけではなく、どのようにそれを活用してもらうかという点とも結びつけて考え、活用を増やし、利用しやすくすることで交付率の向上を図っており、このような考え方は本市での同様の事業においても大変参考になる取り組みでした。



【鷹栖町】